

産婦人科研修プログラム

I プログラムの一般目標 (GIO)

将来の専攻にかかわらず医師として最低限必要な産科及び婦人科の基礎的知識・診断技術を習得する。

II 行動目標 (SBOs)

1. 婦人科診察の基本マスター
2. 産科診察の基本マスター
3. 正常分娩の対応をマスター
4. 産婦人科急性腹症の対応をマスター

III 方略 (LS)

外来研修

1. 妊婦検診：10日間（1名）
診療機器の理解
診察項目手順の理解
妊婦の診察
画像診断（特にエコー）の理解
2. 婦人科診察：10日間（1名）
診療機器の理解
腫瘍病変の診断法の理解
画像診断（特にエコー，MRI）の理解
月経異常の対応
炎症疾患の対応

病棟研修：午前10日間（1名），午後常時（3名）

1. 分娩
分娩関連機器の理解
正常分娩の理解と介助（産道裂傷縫合含む）
新生児の診察
2. 小手術（見学）
流産手術
3. 入院患者の対応
産科
産褥
産褥の診察
新生児の診察
新生児の診察
切迫流早産
婦人科
手術

感染症

手術室研修：午前 10 日間（1 名），午後常時（3 名まで）

1. 産科手術（見学，第 2 助手）
帝王切開
膣式手術
2. 婦人科手術（見学，第 2 助手）
腹腔鏡下手術
子宮鏡下手術
卵管鏡下手術
開腹手術
膣式手術
悪性腫瘍手術

IV 経験すべき疾患

産婦人科急性腹症疾患

産科

1. 子宮外妊娠
2. 流産
3. 胞状奇胎
4. 常位胎盤早期剥離
5. 子宮破裂

婦人科

1. 茎捻転（卵巣腫瘍、子宮筋腫）
2. 卵巣出血
3. 急性付属器炎
4. 子宮内膜症

V 評価

1. EPOC による評価を行う。
2. レポートの提出により評価を行う。（浮腫、腰痛）

【自由選択研修】（できれば 2 名最高でも 3 名）

I プログラムの一般目標（GIO）

産婦人科エキスパートコースとして、産婦人科医として必要な知識・診断技術を養う。

II 行動目標（SBOs）及び

III 方略（LS）

1. 簡単な産婦人科外来診察が自力でできる
2. 正常分娩，産褥，新生児管理が自力でできる
3. 簡単な産婦人科手術の第 1 助手を担当する。

または主治医で執刀する（執刀は6カ月のみ）

1. 産科

- A) 正常妊婦診察が自力でできる
- B) 正常分娩を自力で介助できる
- C) 正常褥婦、新生児の診察が自力でできる
- D) 異常妊娠、分娩、産褥を経験する

2. 婦人科

- A) 簡単な一般外来診察が自力でできる
更年期障害の対応
性器脱の対応
- B) 特殊検査治療（子宮鏡，コルポ診，レーザー治療）の理解と実施
- C) 不妊症診察の理解
診察項目手順の理解
診察内容の記載法の習得
患者への説明
特殊検査治療（子宮鏡、子宮卵管造影、人工授精）の理解と実施
- D) 悪性腫瘍患者の管理（化学療法、放射線療法、末期）の理解

3. 手術（手術前後管理含む）

- A) 産科手術（第2助手、第1助手、執刀）
帝王切開
膣式手術
- B) 婦人科手術（第2助手、第1助手、執刀）
腹腔鏡下手術
子宮鏡下手術
卵管鏡下手術
開腹手術
膣式手術
悪性腫瘍手術

IV 経験すべき疾患及び

V 評価(EV)

基本研修に記載のため省略

産婦人科研修スケジュール

平日午前：

月 手術

火 不妊妊婦診

水 不妊妊婦診

木 手術

金 初再診

但し、手術内容によって午前から手術に入ることもあり

平日午後：

月 手術診、カンファレンス

火 手術

水 手術

木 特殊検査治療（レーザー治療、コルポ診、子宮卵管造影）

金 手術

終日：分娩、急患対応、緊急手術

備考：当直の翌日午前は休みとする